

368 大場茂馬博士弁護士開業披露会

〔『法学新報』第24巻7(277)号 大正3年7月1日〕

○大場博士弁護士開業披露会 先般大審院判事の職を辞したる大場茂馬氏は既報の如く弁護士と為り去五月三十日午後五時より其開業の披露会を築地精養軒に於て開催せられたるか定刻に

至り来会者四方より来集し講談落語等教番の余興ありたる後一同食卓に就き宴漸く酣ならんとする頃大場博士は立て挨拶の辞を述べらる氏は「先づ本夕の披露会は自分か大審院判事の職を辞したること、再ひ弁護士事務に従事したること及び言論上絶對に自由の身と為りたることの三様の意味を有することを述べたる後出席したる高官、弁護士、新聞雜誌記者其他在朝在野の名流に対し深厚なる感謝の意を表し次て各位の後援を仰ぎ度し尤も諸君は何所までも公明正大の地歩を占めらるる方方なれば自分か如何に私情を以て懇願するも聴くへからざることを聴かざる苦なかるべく從て自分は条件附を以て後援を請ふ者なり即ち自分の言動か正義人道に反せざる範圍に於て後援を仰ぐ次第なり云云」と述べ之に対して大審院長横田（国臣）博士は「余が大場博士を知りたるは博士か司法省参事官の時なりき余は如何にもして斯人を大審院に入れ度遂に其目的を達したれば今後は大に大審院にて努力せられんことを希望し居たるに先般突然辭職し度しとの事にて驚けり因て余は博士に若し言論等の關係にて辭職を望まるるならば余は博士の異説を却て喜ひ居るものなれば辭職は宜しからず然れとも若し今後博士か社会にて大に活動せらるる意ならば今の年若き間こそ適當なるへし其趣意ならば余は賛成なりと言ひたり蓋博士は小成に甘んせざるの人他日何れの方面よりか頭角を顯はさるるに相違なし然し余は博士の万事に甘んせざるに引換へ本夕は此盛大なる饗応に充分甘んして而して博士の前途を祝福する」旨を述べられ衆議院議員犬養毅氏は「大場博士の弁護士御披露の会に臨みて余は多年民間

に居りたる一人として最喜はしく思ふ者なり最名誉あり最安全なる地位を擲ちて平生研究せられたる学説を自由にて世の中に公にするか為めに民間に下られたるは余の最愉快とする所なり役人は随分窮屈のものなり博士か今其窮地を脱して自由の天地に就かれたるを賀すると共に多年研究せられたる深邃なる学理を何の憚る所もなく民間に喧伝せらるることに於て一の最有力なる援助を得たるものとして余は喜悅に耐えざる次第なり云云凡そ学者か其所見を社会に普及せしむる所以のものは単り著書や演説のみに限きらす実は多くの人と接觸することを要す就中新聞記者、両院議員並に政黨員等には最多く接觸することを要す然るに此等の者は役人には「ベスト」の如く大禁物にして近くへからざる所のものとせられ居る有様なり今や博士は此等の者と自由に意見を交換することを得るに至りたる訳なり是れ最吾人の賀すへき所とす而して今日は博士の如き専門学者か通俗的に意見を發表するに最好時機なり地方の青年諸氏は大に向上心に富み學術的研究を渴望し居ればなり云云此時に当り吾吾の最尊敬する大場博士か衣冠を擲ちて吾吾の仲間入りをせられたることは余は民間の一人將た浪人の一人として大に賀せざるを得ざる所なり」と述べ又前通信大臣元田肇氏は「外国に於ては法曹か民間にて業務を執り十分に徳を養ひ学識を修め得たる後進て無上の名譽として在朝の法曹と為るを以て普通の順序と為す然るに我國にては事全く之と相反するは国家の爲め遺憾なりとす大場博士か有為の才と学問經驗とを抱きて今日野に下り縦横無尽に議論をせらるることは吾吾の爲めには喜ひに堪へすと雖

も国家の爲めには深く之を惜まざるを得ず乃ち喜悲交々至るの感を以て本夕の町重なる饗応に對し感謝の意を表す云云」と述へ法学博士富井政章氏は「斯の如く学識ある方か今日司法部を去て弁護士界に入らるることは司法部の爲め誠に惜むべきに似たれとも元来司法部は判検事のみより成るものにあらず弁護士も亦之か一部を成すものなり我国は從來進歩著しからざりし爲めに弁護士を視ること判検事の如くならざりしも今後は斯る事なかるへし而して弁護士の地歩の向上を図るは今日の急務、此時に當り大場博士の如き有力家か其方面に立たれたるは斯界向上の爲め益する所大なるべく博士は聽て弁護士社会に重きを爲して真に我司法部の完全なる發展を遂ぐることを得べきを信す又余は博士か業務の余暇不相變學問上にも功獻せられんことを望む」と述へ法学博士江木衷氏は大に時弊に付き痛論したる後「大場博士の如き有力なる人人か身を弁護士界に置き民間の議論に勢援を与へられ專制思想に成る法律を打破し眞の立憲政治を挙ぐるに至ることを得は國家の幸福之に過ぎず此趣意よりして大場博士か民間法曹社会に加はりたるは余の最歡迎する所なり望むらくは裁判官諸公の弁護士と爲られんことを余は独り大場君を歡迎するのみにあらず唯先以て此席に於て大場博士を歡迎するものなり」と述へ最後に報知記者上島長久氏は「現行刑法の欠点を論し併せて司法界の時弊を摘示し立憲の精神に適へる立法を爲す爲め与論を喚起すべき事項多きことを明にしたる後此時に當り我大場博士か民間に立たれたるは吾人百万の後援を得たるの感ありと爲し更に博士か正義の許す範圍に於て諸

君の援助を請ふと言へるを称揚し弁護士事務を刑事事件、犯罪又は不法行為に關する民事事件に限りたることを賛し以て将来の康福を祈る」旨を述へらるる是に於て弁護士卜部喜太郎氏は博士の同窓なるに因り博士に代り來賓諸君の健康を祈ると乾杯し了て前司法大臣奥田義人氏の發聲に因り一同大場氏の万歳を三唱して休憩室に戻り自由雑談に余念なかりしか刻の移るや各自思ひ思ひに退散し其全く終を告げたるは十時を過ぐ因に当日出席の主なる者は磯谷幸次郎、猪俣達也、石山彌平、石原毛登馬、磯部尚、井関源八郎、乾喜代八、入江良之、岩田一郎、板倉松太郎、今清水乾三、岩崎鉄次郎、井上敬吉、伊東知也、市川代治、井上俊雄、岩本磐門、石川安次郎、磯部四郎、犬養毅、一ノ瀬勇三郎、石和田八郎、服部広太郎、林毅陸、播磨辰次郎、羽田智澄、原象一郎、原夫次郎、ハイゼ、馬場鉄一、林頼三郎、馬場豊三郎、半沢玉城、堀田疇作、細梅三郎、堀江專一郎、堀田熊三郎、堀田馬三、堀川寅次郎、富井政章、床次竹次郎、遠山椿吉、留岡幸助、戸狩権之助、十枝省三、値賀忠治、長晴登、大石武、岡田泰藏、小山西内大六、大沢真吉、小川平吉、太田資時、岡本武尚、奥山清治、岡松參太郎、尾古初一郎、大竹武吉、太田団野、小川龜市、大江孝、大内省三郎、大庭善治、大橋淺次郎、尾崎行雄、奥田義人、奥宮正治、大武丈夫、渡辺澄也、脇田勇、川島仟司、金子為七、神戸虎次郎、加瀬禧逸、川手忠義、龜山要、加藤正治、河野秀男、川上定次郎、神谷貞広、葛西秀雄、川瀬順助、柿本昇、横浜勉、横田千之助、横田国臣、横村米太郎、横山達三、吉田善佐、辰巳豊吉、高木益太郎、高

野金重、高窪喜八郎、谷野格、田上省三、高津清、田中一策、
武田明、谷川梅人、田村三治、高橋倫之助、丹野久太郎、竹村
鉄次郎、田中唯一郎、高村喜太郎、曾木実彦、鶴見守義、塚野
凱歌太郎、鶴丈一郎、植拓福馬、中川常藏、中島正司、中西用
徳、中山佐市、内藤庄吉、中村六郎、名川侃市、村上政亮、村
上幸平、梅田幸一郎、中島松次郎、上野能藏、内村達二郎、上
原鹿藏、上島長久、植松良三、卜部喜太郎、内田重成、来馬琢
道、桑田熊藏、黒須竜太郎、呉秀三、倉辻明義、黒沢良臣、草
刈源助、倉橋審三、桑原信雄、山根新治郎、柳田国男、矢追秀
作、築田鉄次郎、柳川勝二、山岡万之助、松田源治、松田道一、
牧野英一、榎山栄治、松井政一郎、松岡俊三、松田禎輔、松本
郡太郎、藤田隆三郎、二木謙三、福井準造、福田和五郎、二上
兵治、藤田知治、古田良三、藤村静郎、福田又市、小出五郎、
小松林藏、孤淵正雄、今浴、小林武彦、小池定雄、小松武治、
小林源藏、江木衷、遠藤忠次、寺島由松、青木徹二、新井要太
郎、有松英義、阿部寿準、浅田彦一、天野濤太郎、天野徳也、
齐藤二郎、齐藤隆夫、佐伯美津留、山宮允、齐藤紀一、佐藤泰
輔、齐藤知二、佐藤正之、山宮鼎、沢田撫松、木村鉞太郎、木
内伝之助、菊池悟郎、北脇佐七、菊地彌之助、岸本正雄、金健
二、三宅碩夫、宮島幹之助、三沢綱藏、水野忠款、宮本藤吉、
宮田哲雄、水口吉藏、宮島次郎、宮岡恒次郎、水野練太郎、水
本豹吉、三淵忠彦、三宅鉞一、嶺八郎、神保孝太郎、清水澄、
清水孝藏、塩谷恒太郎、塩入太輔、塩原又策、白鳥保五郎、ジ
ヤパンタイムス員、志村源太郎、斯波貞吉、平沢均治、平松市

藏、平野猷太郎、広井辰太郎、元田肇、森田義郎、盛田暁、芹
沢孝太郎、瀬下清通、関沢幹夫、杉浦藏吉、鈴木竜太郎、杉山
虎雄、杉原成義、鈴木正夫、末松偕一郎、杉程次郎、鈴木英太
郎、末広巖石、菅沼広助、鈴木宗言、坂井為次、田島貞藏の諸
氏にして近来稀に見るの盛会なりき (LA生投)